

すればふれ一べる氏の言に従つてやつて居ります。幼稚園の仕事を、其不足を補つて行きたいと思ひます。又只今のお話に依りますれば、段々皆の方の將來に於ての事業は有望であるといふことは、勿論明なることでござりますけれども、猶此お話に附加へて喜ばしいことの話をしてしまいます。それは近來東京府下に於きまして、貴族院議員等の資格を有て居りまする華族方がお寄集りになりまして、子供に關した話をお聞きになるのでござります。それで其方々が私の話をお聞きになります。そして、其方々の仰しやるのに、實は自分達はこれまで子供のことに就いては智識のないものであるから、可愛がる餘りに役に立たぬことでもあるやうではならぬから、子供のことを能く知るやうにして、さうして子供の保育の利益になるやうにし

たいといふことで、その御夫人方お嬢さん方までが御希望でお話を致しますが、段々世の中の人が斯ういふことに重きを置かれるやうになりますれば、従ひまして幼稚園の事業の方のことが、どの位有益有用なることかも知れ渡ることは、喋々申上げるまでもないことと思ひます。そういう事情でござりますから、益々皆さん方は此御研究に力を盡せんことを希望致します。

東京便り

▲「夕暮は夏のものなり都鳥」げに夏の夕ほど心行くものは候はじ堪えがたかりし晝間の暑さも一掬の涼しき夕風には名残もなく忘られ候。山河近き邊りの住居のゆかしきこと、四季何れと申されども、夏の景色は又殊更と存じ候、「露白し楓の上

照る星月夜などの感懷 とても都大路の夏の夕暮には望まれ得べくも候はず。

▲さて、其後は打ち絶へ御無沙汰を續け候、筆硯例の如くには候へども、兎角用がなくては一本の手紙も差し上げぬといふ悪い癖が生れ付き候ものから、此の次第、平に御宥免に預り度く、思ひ出し候ては獨り、心の中に濟まぬくと存じ居りし次第に御座候。今回も殊更の用向と申すには候はねど、折柄夏の休とも相成り候、せめてもの御詫までに一筆御伺ひ申上候。

▲今便御報導致したきは、先月末開會の本會開設の夏期講習會の盛況に候。會は豫定の如く、先月二十一日に始まり候が、來會者は南より北より東より、遠きは朝鮮、臺灣の地方よりも有之候て、實に無慮百七十名に達し申候。以て如何にこ

の會が多數の期望に沿はれたるかを知るべく候。講師はかねて豫告の通りの題目にて松本講師六時間野口講師二時間、下田講師二時間、黒田講師十時間、中村講師六時間東講師五時間といふ様な割合にて、何れも熱心講述せられ、會員一同も熱心は聽講せられ候。同二十九日は、お茶の水幼稚園にて全體の茶話會は頗る面白く且つ有益に開かれ、同三十日には聽了證明書を渡して茲に無事閉會致し候。

▲御承知の如く、幼兒を保育する爲めの講習會と申すものは、東京に於ては實に今回が始めてに候。併して此の盛況を致し候。人々は意外の盛況だと申候。併し小生は當然の事として最初より期待致なる刺戟を得られたる事は此上もなき事と存じ候。

もど子と人情

これにつき詳細は尙後便更に申し述べべく候。

會報

草々

入會

新潟市幼稚園

神戸市上澤通二丁目四六

埼玉縣安蘇郡佐野幼稚園

爭同系爭同力推圖

金澤市長町五番丁十六番地

本郷區西片町十番地ホノ十九

抗戰電影研究

會費領收

〔自明治三十八年六月廿六日至全七月廿六日〕

一一一
○○○一
○○○額
年月日
三七、一二
三七、七
三八、三
三八、四
三八、一二
片須藤姓
桐藤井
くつ重名
らね子

右山田ますよ紹介
長
右下田たづ紹介
山中權十郎
寛子
右東基吉紹介
金原てい
右安田りん紹介

右木村良紹介 増田卯之助 横口仁久
永島十四 榎本中三郎

宇進宮谷大勝 赤澤林猪小永嶺遠千坪 村高福村京和檍大岡山川近塚
佐藤地 川村間村 侯島井 藤賀内尾橋本越口田口賀田内島澤本
美はつす久なこ 君玉みハまふし千きマシユジサイイふみかみ岩る
るるほ満みま米江井をマんきづ枝くサげきうだヨクくつづつ吉い